

北朝鮮の水中核兵器開発について(報道記事の紹介)

2010年12月8日付けのワシントン・タイムズに掲載された「Underwater nukes:水中核兵器 by Bill Gertz」(<http://www.washingtontimes.com/news/2010/dec/8/inside-the-ring-141164757/>)記事と、北朝鮮の核機雷開発に言及した関連記事を紹介します。

大変怖い話ですが、広く覚醒を促す効果が期待されます。

横須賀支部会員 河村雅美

【以下、「水中核兵器」からの抜粋】

米国情報機関は、共産党政権が秘密裏に核魚雷及び核機雷を開発しているという北朝鮮内部から暴露された恐るべきレポートを追跡している。

北朝鮮の反体制組織が掲載したニュースレターによると、北朝鮮に核を使った水中核兵器を開発している国防技術研究所の研究者グループがあることが明らかになった。このレポートは、韓国語のニュースレターNK 지식인연대(北朝鮮知識人連帯) (<http://www.nkis.kr/>)が12月3日に発表したものである。【元の記事の和文仮訳を別紙に示す】

米海軍は、かつて核魚雷と核機雷を保有していたことがあり、ソ連海軍も同様に、中国軍も最近2006年の軍事著書の中で核魚雷の使用について論じている。

北朝鮮の核魚雷と機雷の開発は、ハイテク技術に関する米軍及び韓国軍とのギャップを核兵器で補うことを目指しており、北朝鮮の消息筋は、同国の研究者達もこの開発計画に懸念を示しているとニュースレターが伝えた。

このレポートは、中国との北東国境地域にある平安北道で、ある政府高官が「2009年3月から131指導局(原子力総局)傘下の108研究所で核魚雷と機雷の研究を始めた」と表明したことを引用している。この高官は、「核機雷は技術的に完成段階にあり、核魚雷は、2012年までに完成する計画」であると述べたと言う。

核機雷を研究しているグループは“Pongae”稲妻組、魚雷を研究しているグループは“Uroe”雷組と呼ばれている。

この兵器開発は、108研究所の専門家により運営され、その手段には核技術開発が含まれている。その他、この計画には、Kusong(亀城)電子戦研究所と共に魚雷と機雷戦の専門家達が参加している。

北朝鮮は、核魚雷と機雷が、韓国と日本の海軍基地並びに米国の空母を無力化させることができると確信しており、この兵器が、朝鮮有事における米軍の介入を抑止すると考えていると、消息筋は伝えている。

水中核兵器の開発計画に関するこのレポートの情報価値について尋ねたところ、米国情報機関の幹部は、「可能性ある北朝鮮の技術開発については如何なるものも、情報分野の興味の対象である」と答えている。

国際評価戦略センター (IASC) の軍事専門家リチャード・フィッシャー氏は、「これは、十分に有り得る開発計画であり、北朝鮮、イラン及び中国の同盟国から我々自身を守ることに對して、不本意ながら無策の 20 年間の結果である」としている。「中国の戦略は、単にその核兵器が我々を殺戮するに至るまで、我々を北朝鮮及びイランと交渉させることにある」と彼は *Inside the Ring* (ワシントン・タイムズのコラム) に語っており、「もし、我々のリーダーが、今こそこれらの脅威を終わらせるべく、そして中国に對応しなければ、我々は恐るべき運命を宣告されることになるだろう」と言っている。

水中核兵器の開発計画の発覚は、先月 (11 月) に暴かれた北朝鮮のウラン濃縮と遠心分離機の計画を発端として堰を切ったように続いた。このことは、また、北朝鮮が今年 3 月に魚雷攻撃で韓国の軍艦を沈没させて 46 人の韓国水兵を殺戮し、最近では国境の島への砲撃で韓国海兵隊の隊員 2 人と民間の建設作業員 2 名を死傷させた後、この地域に新たな緊張を齎した。

また、このレポートは、中国の専門家が米国の高官に對して、北朝鮮が秘匿した水中核兵器の施設を持っていることを初めて伝えたことを示す文書をウィキリークスが暴露した直後に出版されている。

2008 年 9 月 26 日付の「極秘」と記された公電 (上海において中国の専門家と米国の高官の会話に基づく) は、「北朝鮮の沿岸にある秘密の水中核施設に関する重要な情報」について、北朝鮮が報告を誤ったとしている。

この施設については、六か国協議 (現在は機能停止) で決められた北朝鮮の核開発計画に関する 2008 年 5 月の北朝鮮の宣言から省かれていたのである。

【以下 12 月 9 日に *Information Dissemination* に掲載された記事 *Report: North Korea Developing Nuclear Sea Mines* Posted by Galrahn から抜粋、この記事は前述の「水中核兵器」を受けた記事であり、重複部分を除く】

2010 年 12 月 3 日付けの「NK 知識人連帯」のニュースレターに掲載された記事「北朝鮮、水中核兵器開発」は、脱北者団体からの未確認レポートであることに留意しなければならないが、この新たなレポートについて、何か信憑性を付け加えるに適したものがあるとするれば、ウィキリークスが最近暴露した、北朝鮮の沿岸にある秘密の水中核施設に関する重要な情報について、北朝鮮が報告を誤ったと中国の外交官が、米国の外交官に伝えたという 2008 年 9 月 26 日付けの公電であろう。

核機雷のアイデアは新しいものではなく、過去十年来、核機雷の能力について論じた中国の論文が幾つかある。2007 年冬の *Underwater Magazine* に掲載された Andrew Erickson 等の論文「中国の水中哨兵」に、次の中国に関する論述がある。

『潜水艦は、上昇機雷の射出プラットフォームとして特に注目されており、海軍大連艦艇学院の研究者達の記事は、人民解放軍海軍の SLMM に対する関心の深さを示唆している。第 705 研究

所の研究者は、冷戦時代の米国の Captor と似て、潜水艦攻撃用の深深度海域に敷設できる、魚雷をカプセル内蔵した機雷の獲得を提唱している。』

『機雷帯(潜艇外掛布雷艙:多量の機雷を搭載・敷設できるよう設計された外部形状に適合した外付けコンテナ)は、限られた搭載量を補うべく潜水艦に艀装される。

ある記事によれば、ソ連海軍は、「潜水艦のどちらかの舷に 50 個の機雷を搭載できる機雷敷設モジュール」を開発したと記し、また「数年来、関連する人民解放軍の専門家達は、潜水艦の機雷帯に著しい関心があることを明らかにしており……人民解放軍は、既に潜水艦の機雷帯を開発した可能性が極めて高い」としている。』

『驚くべきことに、戦術核兵器としての機雷の分類が、中国の海軍の分析の中に、理論的な性質として議論されている。ロシアの機雷戦に同じようなある分析結果の文脈があり、核機雷は 2000m のレンジから敵原子力潜水艦を撃沈することができるとしている……2番目の記事では、核弾頭の装備は機雷の破壊力を増すための一つの論理的帰結としており、一方、3番目では、核機雷戦は、特に、将来の深深度における ASW 作戦を約束すると論じている。結論として「現時点で、様々な国々が、この極端にパワフルな核機雷について積極的に調査研究している」としている。

2006 年 7 月出版の人民解放軍海軍の定期刊行物「当代海軍」の中の記事で、前述の文脈に通ずる話題として、将来の人民解放軍海軍の機雷使用の可能性に関しても、また核機雷の能力の価値について言及している。中国にこの様な海軍の戦術核兵器計画の存在を示す直接的な証拠はないが、この方向に働く如何なる兆候についても念入りに監視することが重要であろう。』

北朝鮮は、1971 年の海底条約に署名しているであろうか？北朝鮮がそのようなことにまともに取り組んではいないだろうが、核機雷の使用は、明らかに違反だ。

イランの核開発計画に眼を向ければ、私は、レッド・ラインを一旦超えれば即軍事的な攻撃を意味すると説明してきた。イランの核開発計画について、我々は、それが実際にレッド・ラインを越えたことを確認したことはないが、韓国の誰かが北朝鮮の核開発計画がレッド・ラインを越えたと判断する事態を私は憂慮し始めている。もしそうであるなら、オバマ政権が何故韓国主導の北朝鮮対応の新戦略にコミットするのかを説明することができるかもしれない。例え、その戦略を支持することが韓半島を戦争の瀬戸際に追い込んだとしても、である。

この記事の冒頭に掲載されている写真

【1962 年バミューダ沖で行われた対潜核爆弾の水中爆発実験、手前の艦艇は USS Agerholm (DD-826)】



<http://bernews.com/2010/11/historic-top-secret-bermuda-nuke-docs-online/>

北, 핵탄두 장착 수중무기 개발 (北朝鮮、水中核兵器開発)

脱北者団体「NK 知識人連帯」のニューズレター掲載記事 2010-12-03 15:03

北朝鮮が第2経済(軍需経済)傘下の国防技術研究所に、特別な研究陣を構成して核を用いた水中兵器の開発に着手したと現地の消息筋が伝えてきた。消息筋は、米軍と韓国軍に比べて技術的に劣った空白を核兵器で埋めようという意図が見られるとし、現地の研究者達も無謀な核攻撃兵器の開発は驚くに当たらないが、懸念していると伝えた。

平安北道のある幹部消息筋は、「2009年3月から131指導局(原子力総局)傘下の108研究所で核魚雷と核機雷の研究を始めた」とし「核機雷は技術的に完成段階にあり、核魚雷は、2012年までに完成する計画」であると明らかにした。

消息筋によると、131指導局の中で核魚雷を研究しているチームは『번개조』(稲妻組)、機雷を研究しているチームは、『우리조』(雷組)と呼ばれ、ここには、北朝鮮の核技術開発を行う108研究所の専門家と電子戦研究所の科学者たち、そして、魚雷と機雷を専門に生産する軍需工場の技術者たちが所属しているという。

北朝鮮は、核機雷と核魚雷が開発されれば、韓国と日本の海軍基地はもちろん、米国の空母まですべて無力化させることができると確信しており、韓半島有事の際、米軍の介入を抑えることができると判断していると、この消息筋は述べている。しかし、情報筋は核魚雷と核機雷の研究が、平安北道博川バクチョンにある108研究所で進められているとしても、関連する具体的なデータは不明と伝えた。

これらのニュースは、平安北道の住民にも知られていた。

電子戦研究所の従業員との繋がりがある住民は「昨年3月、核戦略に関連する将軍様(金正日)の指示があった」とし「現在の状況は、核を空中兵器と水中兵器を中心に発展させなければならないと指示した」と述べた。

これは、技術的に圧倒的に優勢な韓国や米国の武器体系を乗越えようとするれば、核弾頭を搭載したミサイルと潜水艦から発射できる魚雷で代替するのが得策ということに由来すると分析されている。

金正日の指示によって、北朝鮮は核を空中兵器と水中兵器に分離して研究しているということだ。平安北道の軍需工場のある幹部は「核魚雷の完成には、まだ技術的に越えなければならない山が多い」とし、「しかし、核機雷は大きな技術が要求されるわけではないので、今からでもすぐに生産することができる」と壮語したと伝えられている。

一方、消息筋は、北朝鮮の無謀な核兵器の開発に北の住民と幹部達はもちろん、専門家達も大きな懸念を禁じ得ないと伝えた。消息筋は、北朝鮮の内部情勢が非常に不安定なことを憂慮し、「内部もしくは外部或いは最高指導部が、最終的な覚悟をしなければならぬ様な時が来れば、核に全てを賭けるかもしれない」ことを強調した。